



夏
スイカだ
スイカ

夏本番、集荷・選別・出荷で大忙し(J A かほく野菜集出荷場)

CONTENTS	平成24年 第2回 定例会	2
----------	---------------	---

議会議員定数条例制定
議員定数15人
とする条例可決

平成24年 第1回 臨時会	6
一般質問(6人が登壇)	7
常任委員会レポート	13
視察レポート	16
議員定数検討特別委員会	17
議員が走る 他	18

編集/かほく市議会広報特別委員会

発行/石川県かほく市議会
〒114-8511 石川県かほく市宇野気1-81番地

E-mail gikai@city.kahoku.ishikawa.jp
076(283)7126 FAX076(283)7188

雨にも負けず風にも負けず
大空に舞い上がれ!



質問1
A 油野市長 答
質問2
A 市長 答

石川県紙ひこうき大会 in かほく
会場: 県立看護大学

4議員に 永年勤続表彰

4議員に対し、長年の功績を讃え、全国市議会議長会より表彰状が贈られ、6月12日の本会議の席上、伝達が行われました。

別宗明敏 議員



沖津千万人 議員



荒井三喜雄 議員



杉本正一 議員



次の定例会は9月4日からです。

議会を傍聴しませんか

本会議・常任委員会などを傍聴できます。議会は身近なものです。どのような議論が交わされているのかぜひ傍聴においでください。本会議は30名、常任委員会・全員協議会は8名の定員で受付順となります。

本会議はケーブルテレビ「かほくチャンネル」で生中継・録画を見ることができます。



市が運営する「かほくチャンネル」では、地域に密着した情報をたっぷり放送しています。

委員のひとり言



撮影: 猪村博靖

今年は天体ショーの金星の太陽面通過など、珍しい現象が相次ぐ。天候にも恵まれ、たくさんの皆さんに見ていただいた。2036年には能登半島をど真ん中にする。皆既日食が見られる。はてさて、私は地上から見られるか? それとも天国から見ることになるのか?
(猪村博靖)

議会だよりは、国会図書館にも送付されています。

印刷コスト 1部 32円(発行部数 11,500部)

平成24年 第2回 定例会

会期 / 6月12日 ~ 6月27日

平成24年6月12日から16日間の会期で第2回定例会を開催し、平成24年度一般会計補正予算など7議案について審議し、原案の通り可決した。

また最終日に追加議案3件が提出され、原案の通り可決し、議会提出議案も可決した。

アクロス高松屋根改修工事費

3千200万円計上



24年度一般会計補正予算 (第1号)

道の駅高松改修設計費計上

歳入歳出をそれぞれ8億4千200万円を増額するもの。(全員賛成)

歳入の主な内容

- 国庫支出金(国から) 道整備総合交付金7千500万円、社会資本整備総合交付金(公園分)2千900万円・(住宅等分)238万円、学校施設環境改善交付金468万円、その他11万円を増額
- 社会資本整備総合交付金(道路分)7千410万円を減額
- 県支出金(県から) いしかわ道徳教育推進事業委託金20万円、その他47万円を増額
- 寄附金 社会教育費寄附金12万円を増額
- 緑入金 まちづくり基金緑入金80万円を増額
- 市債(借入金) 合併振興基金積立事業債4億6千490万円、高松北会館耐震整備等事業債1千550万円、道路橋りょう維持事業債3千200万円、道路新設改良事業債4万円を増額
- 繰越金 前年度繰越金4千646万円を増額
- 諸収入 鉄工機電協会展付金元金収入270万円、デジタル混信対策補償金1千100万円、コミュニティ助成事業助成金(市単土地改良事業分)120万円・(地域防災組織育成事業分)200万円、スポーツ振興くじ助成金(うつけ総合公園陸上競技場施設整備工事)4千352万円、その他46万円を増額

条例改正

印鑑条例等の改正 事務の相互委託に関する規約の変更 石川県後期高齢者医療広域連合規約の変更 外国人登録法の廃止と住民基本台帳法の一部改正する法律の施行に伴い外国人登録法の引用箇所及び用語について変更するもの。(以上3件 全員賛成)

追加議案

一般会計補正予算 (第2号) 市消防団高松第2分団の消防操法大会及び、消防職員の東近畿消防救助技術大会への派遣費として240万円を増額するもの。 工事請負契約の締結 (仮称)七塚南部保育園 建設工事(建築) 制限付き一般競争入札 契約金額 1億8千112万円 契約の相手方 城東・トモ工特定建設工事共同企業体 工事請負契約の締結 契約の目的 (仮称)宇ノ気南部保育園 園建設工事(建築) 契約の方法 制限付き一般競争入札 契約金額 2億3千835万円 契約の相手方 表・沢野特定建設工事共同企業体 (以上3件 全員賛成)

その他

市道の路線廃止 市道の路線認定 市道路線の名称の統一化を行うもの。(以上2件 全員賛成)

議会条例

議会議員定数条例の制定 定数を15人とするもの。(賛成14・反対2)

歳入の主な内容

耐震整備事業債220万円、その他90万円を増額。 雪害対策事業債410万円を減額

00万円、道の駅整備事業債360万円、街路負担金事業債770万円、都市公園整備事業債6千270万円、消防防災施設整備事業債3千190万円、宇ノ気小学校駐車場等整備事業債3千320万円、七塚小学校外壁補強事業債1千70万円、アクロス高松整備事業債3千40万円、高松体育センター耐震整備事業債140万円、宇ノ気体育センター

歳出の主な内容

耐震整備事業債220万円、その他90万円を増額。 雪害対策事業債410万円を減額

84万円、旧上田名保育園解体工事850万円、まちづくり基金積立金4億8千946万円、デジタル混信対策費624万円、その他24万円を増額

農林水産業費 指江ふれあい農村公園遊具更新助成金120万円、その他13万円を増額

商工費 まちかど交流館耐震化等実施設計委託料100万円、見本市等出展事業補助金200万円、鉄工機電協会展付金270万円、にゃんたるう携帯ストラップ製作委託155万円、道の駅高松改修実施設計委託388万円を増額

土木費 高松運動公園内市道改良工事3千200万円、宇野気ふれあい通り線街路事業負担金819万円、公園運動施設整備事業(うつけ総合公園陸上競技場・高松運動公園野球場・谷公園改修工事)1億3千854万円、下水道事業特別会計繰出金900万円、その他90万円を増額

消防費 消防本部庁舎及び高松分署庁舎改修工事3千360万円、七塚第2分団詰所修繕工事160万円、自主防災組織配備用備品購入200万円を増額

教育費 七塚小学校外壁補強工事1千540万円、宇ノ気小学校駐車場等整備工事3千500万円、高松体育センター及び宇ノ気体育センター耐震診断・補強計画策定業務581万円、アクロス高松屋根改修工事3千200万円、その他261万円を増額

特別会計

下水道事業特別会計補正予算 (第1号) 地方公営企業会計移行委託業務として今年度900万円を増額するもの。(翌年度も900万円) (全員賛成)



6000個追加製作する、にゃんたるうストラップ

高松運動公園内市道改良工事3千200万円、宇野気ふれあい通り線街路事業負担金819万円、公園運動施設整備事業(うつけ総合公園陸上競技場・高松運動公園野球場・谷公園改修工事)1億3千854万円、下水道事業特別会計繰出金900万円、その他90万円を増額

質問2 Q & A

高速公衆無線 LAN設置の考えは

店舗の改修時に検討



質問1 Q & A

道の駅高松で(EV)充電スタンドの設置を

EVの普及状況を精査した後で、早くて2年後

平成24年 第1回臨時会

平成24年4月26日、第1回臨時会を開催し、平成24年度一般会計補正予算など6議案について審議し、原案の通り可決した。また、同意案件6件についても原案の通り同意した。

専決補正予算

専決条例改正

平成23年度一般会計補正予算 (第8号) 特別交付税などの交付額が見込み額を上回ったことや、地方譲与税などの各種交付金の確定に伴う補正を専決処分したものを。
平成23年度墓地特別会計補正予算 (第1号) 宇ノ気墓地公園の墓地造成事業で、冬期間の降雪時の工事に不測の日数を要したことから、事業の一部を平成24年度に繰り越すものを。
(以上2件、全員賛成)

税条例の改正

地方税法などの一部を改正する法律が公布されたことなどに伴う、固定資産税及び都市計画税における所要の改正を専決処分したものを。
(賛成16・反対1)
国民健康保険税条例の改正
(以上2件、全員賛成)

その他

工事請負契約の締結
契約の目的
(仮称)高松多目的公共施設増改修工事(建築)
契約の方法
制限付き一般競争入札
契約金額
3億4千125万円
契約の相手方
表・高松特定建設工事共同企業体
工事請負契約の締結
契約の目的
(仮称)七塚北部保育園建設工事(建築)
契約の方法
制限付き一般競争入札
契約金額
1億8千270万円
契約の相手方
兼六・油井特定建設工事共同企業体
(以上2件、全員賛成)

同意

副市長の選任につき同意を求めると
(架合外茂治氏(高松)
公平委員会の委員の選任につき同意を求めると
(金津五雄氏(高松)
監査委員の選任につき同意を求めると
(黒田大喜雄氏(高松)
固定資産評価審査委員会の委員の選任につき同意を求めると
(西田徹雄氏(浜北)
教育委員会の委員の任命につき同意を求めると
(寺西哲秀氏(谷)
教育委員会の委員の任命につき同意を求めると
(遠田敏博氏(木津)
(以上6件、全員賛成)

討論

反対討論

賛成討論



税条例の改正に反対
高橋成典議員
住宅用地の固定資産税・都市計画税の評価は、1992年の通達で実際の取引価格に近付けるため、公示価格の7割まで引き上げるものであり、評価額が一気に上がる。地価が下がっても税負担が増える。
また、住宅用地の固定資産税・都市計画税の特例が平成14年度に廃止され、経過措置として、評価額に対する負担水準が90%を超えるものは据置かれた。
しかし、地価下落の小さいところでは実質増税である。住居や零細事業者などの土地が、金融機関などが保有する土地と同じような取引価格で課税される。
我が党は、銀行やファイナンスは高く、一般商店は低く、住宅用地はさらに低くすべきと提案している。
また、今回の改正は、増税となる改正ではあるが、来年度当市においては、増加の方が4.9%、据え置きの方が50.1%、減少の方が44.0%との試算である。これは、税の上昇以上に土地の評価額が下がっていることに起因するものであり、この時期の改正に賛成する。

質問1
能登有料道路が無料化となると、交通量が大幅に増えることが考えられる。ガソリン車の台数と比較すると、現在は比べものにならないが、電気自動車やハイブリッドカーの台数が伸びてきていることも事実である。
「道の駅高松」に(EV)充電スタンドの設置を考えたらどうか。
A 油野市長 「道の駅高松」に充電スタンドを設置した場合、利用者の方が充電している間に、高松レストハウスで買い物や食事をする事ができるというメリットにより、一定の効果があると考えている。
整備計画の中で中期的な取り組みとして、充電スタンドを整備する方向で計画している。

質問2
携帯電話がスマートフォンやスマートフォンに代わって、ツイッターやフェイスブックを利用する人が急増している。
その魅力はパケット通信であり、そのためには高速回線が必要不可欠である。高速公衆無線LAN設置の考えは。
A 市長 「道の駅高松」に高速公衆無線LANを整備する。

することで、かほく市のイベント情報や観光情報のほか、高松レストハウスの店舗情報や割引サービスなどの配信が出来る。
ここ最近では、コンビニエンスストアや、喫茶店などの商業施設においても接続ポイントの設置が急速に進んでいる。
「道の駅高松」でも、店舗の改修時に整備を検討する。

七尾線の電車にかほく市のラッピングを
現時点では考えていない
JR七尾線にかほく市のマスコット「にゃんたろっ」のラッピング車を走らせてはどうか。
A 市長 年間約300万円が必要と聞く。費用対効果が見えにくく、現時点では考えていない。
子宮頸がんワクチン接種後副反応の事例はあるか
報告は聞いていない
子宮頸がんワクチンの接種で、接種後副反応の事例が数多く報告されている。かほく市ではそのような事例がなかったのか。
A 市長 本市における接種率は87.9%であるが、これまで医療機関や市民の皆さまから副反応の報告は受けていない。



スタンドで充電中

質問2 Q&A

かほく市独自の
道徳教育はどう
あるべきか

効果的・実践的
な能力を育成



質問1 Q&A

地域コミュニティ
の活性化策は

人材育成事業に
て啓発する

Q 一般会計補正予算で「地域づくり人材育成事業」の予算が計上してあるが、ねらいは。

A 山越教育部長 地域活動に取り組み人材の掘り起こしと育成を目的として、社会教育団体やNPO法人などの市民団体、自治会や公民館関係者のほか、まちづくりに関心のある個人や市職員など幅広い市民を対象として実施する。

Q 今後、どのように発展させていくのか。

A 教育部長 事業を通して人材の育成と市民主導による地域活動やまちづくりの新たな取り組みを促進していきたい。

Q 貴重な伝統文化を継承していくための、新しい仕組みを創ろうとする地域に支援はできないか。

A 油野市長 まちづくりは行政だけでできるものではなく、地域の協力が必要であり、どしどし提案していただきたい。

予算を含め来年度に向けて取り組んでいきたい。



元気な地域づくり講座

質問2 Q&A

介護保険料・利
用料の減免制度
の復活を

施設サービスと
条件を同一にす
るため廃止した



質問1 Q&A

住宅リフォーム
助成制度を市で
も実施せよ

特定業者にのみ
恩恵を与えるの
は疑問

Q 県内でも住宅リフォーム助成制度は広がり、津幡町・羽咋市・川北町の3市町でも実施されている。津幡町では、町民や地元の中小業者にも喜ばれ、この間の経済波及効果は2億700万円とのことであり、地域経済の活性化にも役立つ制度である。

Q 津幡町は、今後も申請が増えれば、さらに増額を検討することである。当市でも実施せよ。

A 油野市長 住宅リフォーム助成制度は、産業建設常任委員会で、「特定業者にのみ恩恵を与える」と、申請を不採択としている。市としても今後、既存の住宅関連助成制度をまとめた資料を作成し、市民によりわかりやすくPRして行く。



介護施設での認知症予防教室

Q 現在、かほく市介護保険料・利用料の減免制度の利用実績はゼロ、改善された減免制度を元に戻すべき。

A 市長 以前、市独自の減免制度として、在宅サービス利用者の「市介護保険サービス利用料助成事業」があったが、施設サービス利用者と同サービス利用者の条件を同一にするため、平成20年度に、制度を廃止した。理解をいただきたい。

社会福祉法人などによる生活困窮者に対する利用者負担軽減制度もある。

Q 市民から、「主人が病気で倒れ、自宅で介護している。以前あった介護の利用料助成制度は大変助かった」、「わずかな年金から介護保険料が天引きされ病院への通院も減らし、訪問ヘルパーの利用も辞めた」など深刻な声が寄せられている。助成制度の復活を求める。

A 市長 次の第6期計画策定時（3年後の介護保険計画）で検討する。

質問2 Q&A

「中小企業振興基本条例」を制定する考えは

制定する考えはないが、効果的な施策を実施



質問1 Q&A

通学路の歩道をカラー舗装にする考えは

歩車道境界ブロックで分離の方が効果的

質問1 本年4月から5月にかけて、集団登校中の小学生の列に自動車が出っ込む痛ましい事故が相次いだ。車道と歩道をわかりやすくドライバーに注意喚起を促すためにも、カラー舗装を採用する考えは。
A 油野市長 市では、歩道と車道を歩車道境界ブロックなどで分離し、自動車が直接歩道に乗り込めない構造にすることが一番安全であると考え。
カラー舗装による歩車道の区分については、ドライバーに対し注意喚起を促すという点では一定の効果があるようだが、実際に事故を防止する効果については、あまり期待できない。
参考になるような先進的な事例について今後、研究していく。



安全性の高いカラー歩道

通学路の安全対策は適時適切に実施している

通学路のカーブミラー・ガードレール・標識の設置

歩道の確保 白線の引き直しなどの点検は。

A 大西産業建設部長 カーブミラーは、市内全域に743基設置しており随時、点検や補修作業を実施している。

ガードレール・標識は、地区要望をふまえ、優先度の高いものから順次更新・新設している。

白線の引き直しは、4月の入学式の時期までに、薄くなった箇所の引き直しを実施している。

今後、交通安全施設の点検や整備を適時、適切に実施していく。

質問2

中小企業を取り巻く厳しい環境のなかで、企業自身が自助努力することはもとより、行政や市民も、その実情を共有し、それぞれの役割を果たしていくことを定める「中小企業振興基本条例」を制定する考えは。
A 市長 提案の条例は、地域の雇用や経済を支える中小企業の振興を図るために、市の役割と責務、中小企業者の役割と努力、市民の理解と協力などといった、「理念」を定める条例であり、具体的な施策を定めるものではない。
中小企業振興基本条例を制定する考えはないが、より効果的な具体的かつ実質的な施策を展開し、中小企業の活性化及び地域経済の振興につなげていく。

質問2 Q&A

これまでの、消費者行政への取り組みは

高齢者・子どもへの啓発及び体制強化を図った



質問1 Q&A

保育園統廃合と民営化は

検討委員会で再審議する

質問1 保育園の統廃合も最終段階に入ったが再度、検討委員会で検討する、統廃合と民営化のねらいはどこにあるのか。
A 油野市長 保育園の統廃合が終盤にさしかかったところだが、計画策定当初の想定をはるかに越えて、保育園児対象者の減少が著しく、保育園適正配置数などについて、再度、保育園施設運営等検討委員会に、直近のデータや資料を示しながら再審議していただくこととしている。
また、検討委員会の審議経過については、議員の皆様へ報告する。
保育園の民営化は国の動向を注視する。
A 市長 保育園の民営化については国は、「認定こども園」制度を存続・拡充する方針とした。今後、国の動向を注視し、



最終段階に入った保育園整備

保育料の軽減や長時間保育の無料化、延長保育料の軽減と休日保育の実施など、何が本場に必要なのかを検討していく。

質問2

消費生活センターが設置されて2年目になるが、市における状況、現在果たしている役割、効果について問う。

A 市長 平成17年4月より、消費生活相談窓口を専任職員1名を配置し、相談業務を行ってきた。

この間、貸金業法の改正や、消費者庁が創設された

ことで、地方自治体の取り組みが重要視され、市民の安心安全確保のため、独自の方針を定めて相談業務を始め、高齢者教室や子どもの金融教育などの啓発事業にも取り組んできた。

設置基準となつていて専門知識を有する職員が必要とのことから、職員の消費生活コンサルタントの資格取得に加え、専門相談員1名を雇用し、体制を3名とし強化を図った。
A 森田市民部長 相談件数は、94件から133件と増加している。主な相談内容は、出会い系サイトに関するものが33件、金融・多重債務に関するものが24件、訪問販売に関するものが15件となつている。
相談内容は多種多様なものとなつてきている。相談者への助言はもちろん、相手となる事業者、相談者ならびにセンターとの三者面談なども行っている。
専門性の高い分野は、市の無料法律相談にて顧問弁護士への取り次ぎもしている。

おもな質疑
(所管事項含む)
宇野委員長
消防庁舎外壁の工事内容は、
南消防課長
本署の修理で1千700万円、分署の改修工事で600万円、補助訓練棟などで220万円、本署・分署庁舎の周りのフェンスなどで480万円の改修費用である。

金田委員
市長車をエコカーに替え、現車を議長車にするとの説明であった。
この際に議長車もエコカーに代替してはどうか。
綾瀬議会事務局長
事務局としてもエコカーにこの思いもあるが、市長車は12年目に入るが、まだまだ使用可能との意見もあり、議長車として使わせていただく。



外壁の改修が待たれる消防庁舎！

坂井委員
合併特例債での積み立て基金が20億円であると記憶している。説明では19億5千万円ほどである。5千万円ほど少ないのでは。
中田財政課長
積み立て基金の20億円の説明は概算のものであり、国の、合併した市町村に対する計算結果が19億4千万円である。

総務常任委員会

消防庁舎
外壁整備費に3千190万円計上

多々見邦次副委員長
白山市でデジタル防災無線が混信しサイレンが鳴らず、住宅が全焼したことが新聞報道されていた。かほく市では混信の心配はないのか。
消防課長
現在のかほく市消防ではサイレンはアナログを使用しており、消防本部は無線交信とは別な周波数を使ってサイレンを鳴らしているの、そのようなことは全くない。

杉本正一委員
デジタルテレビ放送混信対策に1千万円が予算計上されていて、対象件数が150件との説明があった。エリアはどこからどこまでなのか。
山口企画情報課長
エリアは概ね、南は白尾インターから北は看護大学インターまでの、国道15

9号線と能登有料道路までの範囲である。
寺内委員
その中でケーブルテレビの加入を促進して何件からの獲得を見込んでいるのか。
松原企画情報課長補佐
150件の問い合わせ件数であったが、すでに100%ケーブルテレビに加入していただいていると認識している。

寺内委員
保育園の解体工事に850万円計上されているが、この金額は整地の分も含まれているのか。
池田管理課長
解体のみの費用である。

審査の結果
24年度一般会計補正予算(第1号)
(全員賛成)
「緊急事態基本法」の早期制定を求める意見書採択を求める陳情
(賛成4、反対1)

総務常任委員会
委員長 宇野 順一
副委員長 多々見邦次
委員 寺内 照雄
杉本 正一
金田 正信
坂井 正毅

質問1 Q&A

今後の姉妹都市メスキルヒ市との交流は

節目のセレモニーなど、末永い交流を進めていく



質問2 Q&A

「幼保一元化」に対する考え方は

更に、時間をかけて検討していく

質問1
5月29日から6月8日まで、姉妹都市であるドイツのメスキルヒ市から「成人交流」として6名の方が来市し、市民のみなさまと交流を深めていただいた。我が家でも、ホストファミリーとして、メスキルヒ市の市議会議員である「ヨアヒム・パハ」さんをお世話させていただいた。
訪問団の方々は「市議会との意見交換会」をはじめとして「市内の施設・企業見学」「市民との交流」「西田幾多郎博士の命日に墓参」なハードなスケジュールをこなされた。
今回、ホストファミリーを務めて感じたことは、全国の多くの自治体で、姉妹都市交流が行われているが、儀礼的なものも多く見受けられるなか、当市の姉妹都市交流は、大変実のある交流であるということである。そこで、今日までの、すばらしい交流実績を踏まえ、今後の交流をどのように進めていくのか。



メスキルヒ市訪問団が西田幾多郎博士の命日に墓参

A 宇野市長 国際社会が進展する中、市民の国際理解を推進するため、姉妹都市との交流事業や国際交流員の配置などの施策を展開しており、特にメスキルヒ市との姉妹都市交流は、旧宇ノ気町時代に引き続き、合併後の平成16年7月の盟約書調印時において、青少年や一般市民の相互交流の継続と国際哲学シンポジウムとの相互開催の方針を確認している。

たものであり、国際交流事業の中でも重点的に取り組んでいるものである。今後の交流は、これまでの交流継続を基本として、節目のセレモニーを逐次開催しながら末永い交流を進めていく。
現在、市制10周年記念事業計画の中にメスキルヒ市との交流を図る内容を盛り込むことが可能か検討している。

質問2
幼保一元化に関し、民主、自民、公明の3党協議がまとまり、「認定こども園」の拡充で対応することとなった。幼保一元化施設があることにより、保護者の就労形態にかかわらず、子どもが保育・教育の機会を等しく得ることができ、保護者の選択肢の拡大が図れることとなる。
地域の多様なニーズに対応する「幼保一元化施設」に対する考え方は。
A 市長 「認定こども園」制度は、幼稚園と保育園のそれぞれ良いところを活かしながら、その両方の役割を果たすことができるという新しい観点のもと、平成18年10月から開始された制度である。
子どもへの良質な保育環境を保障するために、どのような子育て支援システムが必要なのかを、今後、時間をかけて検討していく。

市民文教常任委員会

高松野球場の整備は

12月に竣工予定

おもな質疑 (所管事項含む)

竹内委員

高松野球場のグラウンド整備及びナイター照明などの計画は、どのようになっているのか。

また、追加分として今回夜間照明設備基礎工事が計上されているが、当初予算で計上されていなかった理由。

千田学校教育課長補佐

高松野球場は、7月に入札を行い、12月竣工予定である。

夜間照明設備6基の工事は来年度に予定しているが、内野2基分の基礎工事について当初計画していた、翌年度施工では、再工事となるため、本年度前倒しして施工したい。



改修が待たれる高松野球場

沖津委員

七塚小学校において、度々改修工事の予算要求がでてくるがその理由は、

学校教育課長補佐

平成19年に構造部材の耐震工事を終えたが、非構造部材箇所の工事はできなかったことや、海に近く潮風の影響も大きいと思われる。

別宗委員

保育料の滞納が多いとの報道があった。

6月は児童手当の支給月である。これに合わせて保護者に納付を促してはどうか。

能任子育て支援課長

園長が督促状を直接手渡したり、児童手当支給時にも納付してもらうなど、滞納額はここ数年確実に減少している。

高橋副委員長

アクロ入高松で屋根改修費が計上されているが、平成8年に建設され、平成16年にも当該屋根の約1/3

が同様の屋根改修工事を行っている。設計・施工上問題はないのか。

山越教育部長

当初の取付金具は鋼製のものであったものを、改修ではステンレス製に取替える。今後20年以上の耐久力が見込める。

安達委員長

原子力災害が発生した場合において、能登地区の住民が避難する際、かほく市を通じて加賀方面へ行くほかない。

交通渋滞、交通事故対策を含めての対策は。

市民生活課長

6月9日、県の訓練があり、消防団、街頭交通推進隊に出勤を要請し、交通整

理の訓練を行った。

確かに能登からの避難はかほく市を車で通過するか船舶を利用して海上避難するしかない。

交通推進隊、防犯、消防団などの協力を得て態勢を整えることが重要と認識している。

審査の結果

24年度一般会計補正予算(第1号)

市印鑑条例等の改正
事務の相互委託に関する規約の変更
石川県後期高齢者医療広域連合規約の変更
(以上4件、全員賛成)

市民文教常任委員会
委員長 安達 肇
副委員長 高橋 成典
委員 別宗 明敏
西田 正剛
竹内 幹雄
沖津 千万人

沖津委員

防災組織の立上げを予定している町会区への防災資

機材の支給品予算、200万円が計上されているが、その対象地区は、

多々見市民生活課長

北新町、岸川町、一ツ屋、木津、浜北、大崎、谷地区の7地区であり、既存組織と合わせ、全体で防災組織は18地区となる。

産業建設常任委員会

高松野球場側道350m区間 幅員6mに拡大

おもな質疑 (所管事項含む)

遠田委員

高松運動公園(高松野球場)道路拡幅工事で、現在延長350mのうち、80mが幅員5mの計画だが、全線6m道路にできないか。

蔵谷都市建設課長

沿道にある市木の桜に配慮した計画であり、伐採処分することで、可能であると考えられるため、前向きに計画を進める。

多々見武委員

拡幅工事に伴って、運動公園内に遊歩道やジョギングコースなど、住民に親しまれる「健康・体力づくり散歩道」を整備できないか。

大西産業建設部長

公園整備時に数か所の遊歩道が設置されていたが、現在、草木が生い茂り道路が狭くなり利用者が減少しているのは事実である。



幅員6mに拡大される道路(高松運動公園内)

この機会に他部局と連携を図り検討する。

荒井委員

高松レストハウスのトイレが老朽化しているが、整備工事に合わせて改修できないか。

瀬戸産業振興課長

トイレは県の施設であり、今後どうしていくかを相談している段階である。結果は逐次報告する。

遠田委員

高松レストハウス整備工事で喫煙者に対する分煙施設を設けるのか。

産業振興課長

路上喫煙は禁止であり、今後関係者と協議していく。

多々見武委員

公園内に整備された遊具の点検、時期と方法は、

都市建設課長

2年に1回専門業者が行い、日常は市職員が定期的点検している。不具合については早急に対応している。

遠田委員

にゃんたるつストラップが昨年度2千240個も売れ、大変評価しているが、最も売れた場所はどこか。

産業振興課長

大変好評であり、特にグラウンドゴルフ大会の、景品目的などの購入が一番

多く、次に高松レストハウスでの販売が多かった。

金子副委員長

市が実施している住宅関連の助成制度が6種類あるが、市民により利用してもらいように分かりやすくまとめた資料を作成しては。

都市建設課長

ご提案の通り、現在作成中であり、出来上がり次第広くPRしていく。

荒井委員

通学区域内での側溝改修工事の進捗状況を、示すことはできないか。

都市建設課長

合併時点における旧町の整備実績による相違もあるが、市内6小学校を中心に半径500mの市道に限定しては約87%である。

審査の結果

24年度一般会計補正予算(第1号)

24年度下水道事業特別会計補正予算(第1号)
市道の路線廃止
市道の路線認定
(以上4件、全員賛成)

産業建設常任委員会
委員長 猪村 博晴
副委員長 金子 猛
委員 荒井 三喜雄
多々見 武
遠田 順
欠席 杉本 成一

青少年アンビシャス運動 (福岡県庁)

原子力災害対応策 (佐賀県唐津市)

地域分権の「郷づくり」 (福岡県福津市)

5月16日から18日の3日間、福岡県が進めている「青少年アンビシャス運動」、佐賀県唐津市の「原子力災害対応策」、福岡県福津市の地域分権としての「郷づくり」について視察研修を行った。

市民文教常任委員会 視察研修レポート

福岡県の県民運動「青少年アンビシャス運動」では、「アンビシャスな青少年になるための七つの提案」を掲げている。その主なものは「地域ぐるみで子どもを育てよう」、「学校でアンビシャス運動を進めよう」、「自らを鍛え、得意技を持つ」、「世界の青少年と切磋琢磨しよう」などである。運動のスタート時点では、地域と学校の接点が乏しかったことから、学校給食を地域の方々と一緒にとり、交流を図った結果、参加者が増えたという事例報告を受けた。



福岡県庁での視察

福岡県庁 福岡県の県民運動「青少年アンビシャス運動」では、「アンビシャスな青少年になるための七つの提案」を掲げている。その主なものは「地域ぐるみで子どもを育てよう」、「学校でアンビシャス運動を進めよう」、「自らを鍛え、得意技を持つ」、「世界の青少年と切磋琢磨しよう」などである。運動のスタート時点では、地域と学校の接点が乏しかったことから、学校給食を地域の方々と一緒にとり、交流を図った結果、参加者が増えたという事例報告を受けた。

は1km、遠くは30km以上と、原子力災害が発生した場合、広範囲にわたって影響を受ける市である。福島原発事故以降、「地域防災計画」の見直しを行ったところであり、その内容は、本市においても参考となるものであった。

計画の見直しは、昨年6月から検討に入り、県、関係市町と協議を行い、8月に県の「原子力災害対応暫定行動計画」と、市の「原子力災害対応暫定避難計画」を策定し、11月に計画の検証のための「原子力防災訓練」が実施された。

その訓練の反省課題として挙げられたものは、「災害弱者の避難対策」、「交通渋滞・交通事故対策」、「避難の長期化対策」、「避難所運営」、「避難情報の伝達手段」などであった。

本市においても、原子力災害の発生時には多くの避難者が市内を通過していくことを想定すると、「交通渋滞・交通事故対策」なども真剣に考える課題であると感じた。

福岡県福津市 福津市は地方分権ならぬ「地域分権」を掲げ、「郷づくり」を推進している。「郷づくり」とは、「自分たちの地域は、自分たちの手で」という意識を持ち、地域の課題解決や魅力ある地域とするための地域自治の活動である。

市内を八つの地域に分け、自治会、各種団体などで構成する「郷づくり推進協議会」を立ち上げ、それぞれの地域で「福祉」、「子育て支援」、「防災・防犯」、「環境」の4つの必須テーマに、自分たちのテーマを加え「地域づくり計画」を作成し活動を行っている。

しかし、スタートしてから数年で地域差が現れ、古くからの地域は活発であるが、新興地域では役員になり手不足などから衰退しているとのことであった。

このことから、本市で「市民との協働」などを推進していくには、地域の連帯感があるうちに進めていくべきと強く感じた。

議員定数検討特別委員会 中間報告

議員定数を18名から15名とすることを決定

平成16年3月1日の合併により誕生したかほく市においては、在任特例により、1年2か月間旧時代の議員44名が在籍していました。平成17年4月、第1回かほく市議会議員選挙が行われ、18名の議員となり、新たなスタートを切りました。

その後、平成21年4月の第2回市議会議員選挙も18名の定数で行われて現在に至っています。

その間、議会活性化推進委員会を立ち上げ、短期・中期・長期に分けて議会改革を進めて参りました。合併から9年目に入り議員の任期も残り1年を切った今、次回の平成25年4月予定の第3回市議会議員選挙後は、ちょうど合併特例期間最後の年であり、その後の財政を考えると議会としても今一度、議会のあり方について議員自身がエツ

クをし、これからの議会活動に生かしていくことが大切であると考え、新たに平成23年7月1日に議員定数検討特別委員会を立ち上げました。

これからの地方分権時代に対応し、行政とともに地域の意見を集約し、議会の場での議論し、かほく市の更なる発展、市民の福祉増進のための議会としての活動。また将来のかほく市の議員定数のあり方について、これまで11回の委員会を開催し、協議してまいりました。議会のあり方として、本年2月に市民3千名を対象とした「市議会に関する市民アンケート」を実施し、アンケートでのご意見、また委員による地域住民の意見集約、事務局による県内市議会や周辺議会の状況を比較するなど、協議してまいりました。

また、4月28日には、山

梨学院大学教授の江藤俊昭先生を講師に招き、「議会講演会」を開催。市民の方々といっしょに拝聴しました。

講演後、講師と議員との「かほく市における議員の定数はどうあるべきか」など議員研修会も行いました。議員定数に関しては、かほく市の財政規模、人口規模、面積規模を勘案し、議員の役割である地域の代弁者という側面を考慮した場合に、多種多様な意見を集約、反映するためには、各委員それぞれの主張はありましたが、協議検討の結果、現在の18名から15名との結論に至りました。

なお、議会改革については、多岐にわたるため、今後引き続き当委員会において調査研究してまいりたいと思っております。

江藤俊昭先生 (山梨学院大学教授) による議会講演会



演題 / 議会改革と議会の活性化
場所 / 西田幾多郎記念哲学館
日時 / 平成24年4月28日(土)

現在の地方自治体の議会は、二元代表制のもと、重要な権限が与えられている。しかし、住民は、議会に対して数多くの不満をもっている。

それは議会が市民から信頼され、役割を果たしているのか、疑問だからである。

議会として、市民の意見を聞き、議員間で活発な討議を行い、首長と切磋琢磨しながら、政策の立案や議決・監視をして、住民にとって開かれた、住民参加の協働を意識した議会活動を行っているのか、どうかである。

住民自治の根幹として大切なものは、住民及び議会参加の総合計画であり、合併したときの新市総合計画である。

また、議会として大切な

かほく市の議会改革の環境として大変勉強になり、今後の方向性が見えてきた思いがした。



グリーンレーザー効果あり

「議員が走る」第3回。
多々見邦次、坂井正朝が担当。

カラスと格闘の日々

議員が走る

市民インタビュー

地域住民の方々に

国道159号線石川トヨタ河北店様より南側300メートルに渡り、カラスの糞で車道や歩道が真っ白になっていた。

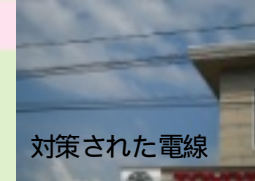


糞害の著しかった道路

2010年9月議会に一般質問でこの問題を取り上げた。

市側の答弁は、

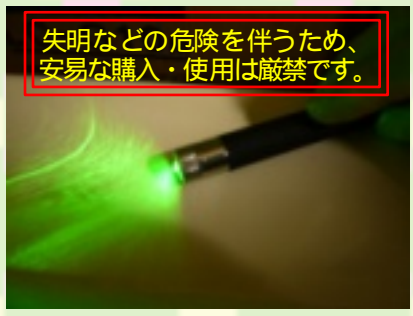
「職員が爆竹やロケット花火などで追い払う対策を行っている。全国この自治体もカラスの糞対策に苦慮しており、電線にとまれないように、北陸電力とも協議を重ねてきた。



対策された電線

清掃車の要請や地域住民の協力を得て、清掃活動や

餌となるものを排除するなどの手段を講じる。しかし、実際はこれ以外の方法がなく、「いい案があったら教えて欲しい」との答弁であった。



失明などの危険を伴うため、安易な購入・使用は厳禁です。

そこで、インターネットで「からす撃退グッズ」を検索すると、グリーンレーザーポインターの照射が効果的であると載っていた。

当然歩道や路面は随分きれいになった。



きれいになった現在の道路

そこで今回の「議員が走る」では、坂井と多々見の担当で、この問題を取り上げ、カラスの糞被害に悩まされていた方に、インタビューを試みることにした。

川端京子さん

路上に散乱するカラスの糞で、毎日掃除が大変でした。最近カラスがいなくなり



喜んでいたのですが、まさかカラスを追い払っている人がいたとは知りませんでした。感謝しております。

一口金一郎氏

カラスは特別悪さをするということではないが、群れで電線に止まっていると、不気味でもあり街のイメージも悪くなる。



また、糞害による道路清掃など大変だった。カラスを追い払ってもらい喜んでいる。

北陸電力に電線にカラスが止まらない対策をして頂き、少しはよくなったがそれでも毎日カラスの糞を洗い落とす作業は大変だった。最近カラスがいなくなっ



たと思っていたが、そんな努力をしているとは知らなかった。ありがとう。

悪戦苦闘の日々であったが、今までカラスの糞で困っていた人たちが、路面がきれいになり、糞の後始末の煩わしさから開放されて喜んでいる姿を見ることができ、今までの活動が無駄でなかったとの思いである。今後より効果的な方法も探りながら、この活動を継続していきたい。

大分県豊後大野市議会が「議会だより」研修で来訪

5月9日、大分県豊後大野市議会が「議会だより」広報研修のため、当市議会広報特別委員会を訪れた。研修では、和やかな雰囲気の中で、「議会だより」の編集方法とDTP化について概要説明を行った。

質疑では、DTP化の専用ソフトを使い印刷工程直前までの分担編集や、紙面レイアウトなど詳細質問を受けたほか、今回の視察受入れでは、お互いの「議会だより」の比較検討も行いました。

DTP化に関心を示す

また、市政についても活発な意見交換がなされました。当市議会にとっても、広報のあり方・紙面づくりなど、あらためて検討すべき良い機会となり、有意義な研修となりました。



能登五市議会 議員研修会開かれる

5月15日、能登五市の議員研修会が羽咋市で開かれ、「最近の県政の課題」と題して、谷本正憲県知事の講演を拝聴した。



人口減少時代における県の活性化に関連して、人とモノの交流拡大に向けた基盤整備

新幹線金沢開業対策
世界農業遺産の活用・保全と魅力発信について
県政の重点課題について説明があった。

谷本正憲県知事が講演

交流人口の拡大では、能越自動車道（輪島道路）の24年度新規事業着手、来年4月に能登有料道路の無料

化で交流人口の一層の拡大が見込まれ、関東方面からの観光客を能登と呼び込み、自然豊かな能登の魅力を大いに満喫していただくことも、特に世界農業遺産に指定されたことを最大限に活用するなど、今後の能登地域の活性化について説明された。



将来の石川県の未来を学ぶ貴重な機会となった。

メスキルヒ市 成人交流団と懇談

5月31日、おりから来市中のメスキルヒ市成人交流団から申し入れがあり、かほく市議会との懇談会が開かれた。

これはメンバーの中にヨアヒム・バハさんという議員さんが居られたのが、御縁である。

それぞれの自己紹介から始まり、和やかな雰囲気の中で意見交換した。

メスキルヒ市の議員さんと意見交換

双方の議会の仕組みや、議員の立場、報酬、市の予算額、税金の使途など、多岐に渡って話が弾んだ。日本と違って、州、郡の力が強いこと、市町村では道路が造れない事など、驚く事も多々有意義なひと時であった。（夜のノミニケーションも有意義でした。）

